



Point
製作計画から製造まで、信頼できる力添えがあったので商品化することができました。

代表 加藤 真吾
かとう しんご

伝統工芸を履物に！秋田杉の下駄で踏み出す一歩

ものづくりのDNAを継いで

大仙市大曲駅前の花火通り商店街に店を構える「和装はきもの・小物 加藤」。店内の商品構成とディスプレイをこなすのは3代目の加藤真吾さん。常に作り手が周りにいる環境で磨かれたセンスの良さが随所に光る。「初代の祖父は自分で下駄を作っていました。ものづくりのDNAがあるのかもしれない」。今春、新商品となる秋田杉の下駄“gappa”の販売を開始した。SNSなどでの発信により、若い世代からの注目も高い。「鼻緒^す挿げの実演で訪れた弘前市で、伝統工芸の熱量の大きさに衝撃を受け、秋田の伝統工芸も履物に活かしたいと考えました」。一昨年、センター主催のセミナー「販路の教科書」に参加し、「自分だからこそ出来ることを考える」という講師の言葉がきっかけとなり、原点である履物屋としての商品づくりを決意した。

様々な出会いから生まれた秋田の履物

開発は知財・デザイン支援課が、商品企画から仕様、下駄の木地やソールづくりを担う県内企業とのマッチング、情報発信までをサポート。「どうして作るのか、強みや弱みは何か、作り手と一緒に本気で考えながら力添えしてくれます」と加藤さん。センター主催の講座などで、ものづくりへの熱意を持つ方々と出会い、そのネットワークを今回の新商品にも活かすことができたという。オリジナルキャラクターやキャッチコピーも、秋田の事業者にお願いした。

上品な樺細工や鮮やかな漆塗が目を楽しませる“gappa”。色とりどりの鼻緒を自由に組み合わせると、自分だけの一足が完成する。「普段使いの履物として使っていただきたいですね。今後は実績をもとに、ものづくりの土壌を次世代へと繋いでいきたいです」。

センター活用事例

【商品開発】

和装はきもの・小物 加藤

〒014-0024 秋田県大仙市大曲中通町9-20
TEL/FAX.0187-62-4391

和装はきもの・小物 加藤 @wasohakimonokato
秋田杉のげたgappa @gappa_gappa_gappa



活用事例

産業デザインに関する助言

産業デザイン、製品開発、マーケティング等についての専門的な助言や、デザイナーとのマッチング、コーディネートを支援します。

【お問い合わせ】 知財・デザイン支援課 TEL.018-860-5614